

小学校区単位の健康づくり事業について

概要

糸島市における生活習慣病による死亡者数は、人口10万人当たり470.4人（平成22年度）で、全国・福岡県と比較すると少ないですが、平成12年度より8%増加しています。また、糸島市国民健康保険における疾患別医療費割合では、高血圧症が統合失調症に次いで2番目に高い状況です。

生活習慣病の予防は、市民のQOL（生活の質）の向上につながるといえます。生活習慣病の大きな原因の一つとなる個々人の生活習慣は、家庭のライフストーリーが大きく影響し、また家庭の生活習慣は、地域の伝統的習慣などが影響を及ぼしているといえます。

そのため健康づくりを推進していくにあたり、市一律的な取組だけでなく、地域の特性を踏まえ、地域の健康課題に応じた対策が必要と考え、平成27年度より健康づくり事業の体制を、業務分担制から地区分担制へ転換しました。保健師、管理栄養士、看護師など多職種チームが各小学校区を担当し、校区の健康課題を明確化し、その原因となる生活習慣に応じた対策を地域住民協働により推進します。

平成27年度の実施

- （1）特定健診受診率向上（受診の必要性の理解、校区の協力（住民への周知啓発、小回り健診の実施等）
- （2）校区健康づくりキャッチフレーズの決定
- （3）健康状況校区分析
- （4）平成28年度校区健康づくり事業計画作成（～3月）
- （5）校区健康づくり講座の実施（12月～3月）

平成28年度の実施

- （1）特定健診・がん検診受診率向上対策（受診の必要性の理解促進（住民への周知啓発、小回り健診の実施等）
- （2）健康状況校区分析（経年データの追加、校区医療分析のデータ追加等）
- （3）校区健康づくり講座・個別事業の実施（PDCA）
- （4）平成29年度校区健康づくり事業計画の作成（PDCA）

地区分析について 別紙資料

(1) 量的データ

① 地域の背景

人口：人口構成（年少人口、生産年齢人口、高齢人口）、高齢化率

世帯：高齢者世帯、単身高齢者世帯

居住期間

就業：就業者数、就業地、産業別

② 健康状況

特定健診：受診率

有所見者状況（摂取エネルギーの過剰、血管を傷つける臓器障害等）

③ 生活習慣：問診結果状況（運動、食、喫煙、飲酒、睡眠、服薬等）

④ 介護等の状況：認定率、日常生活ニーズ調査結果

⑤ 医療費の状況（市）：国保、後期高齢者医療

⑥ 主要死因状況（市）：悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎等

(2) 質的データ

① 保健師活動からみえてくる地域の生活習慣等

② 自治会等の組織力、活動等

③ 地域包括支援センター等からの情報（地域ケア会議）

④ 地理的条件